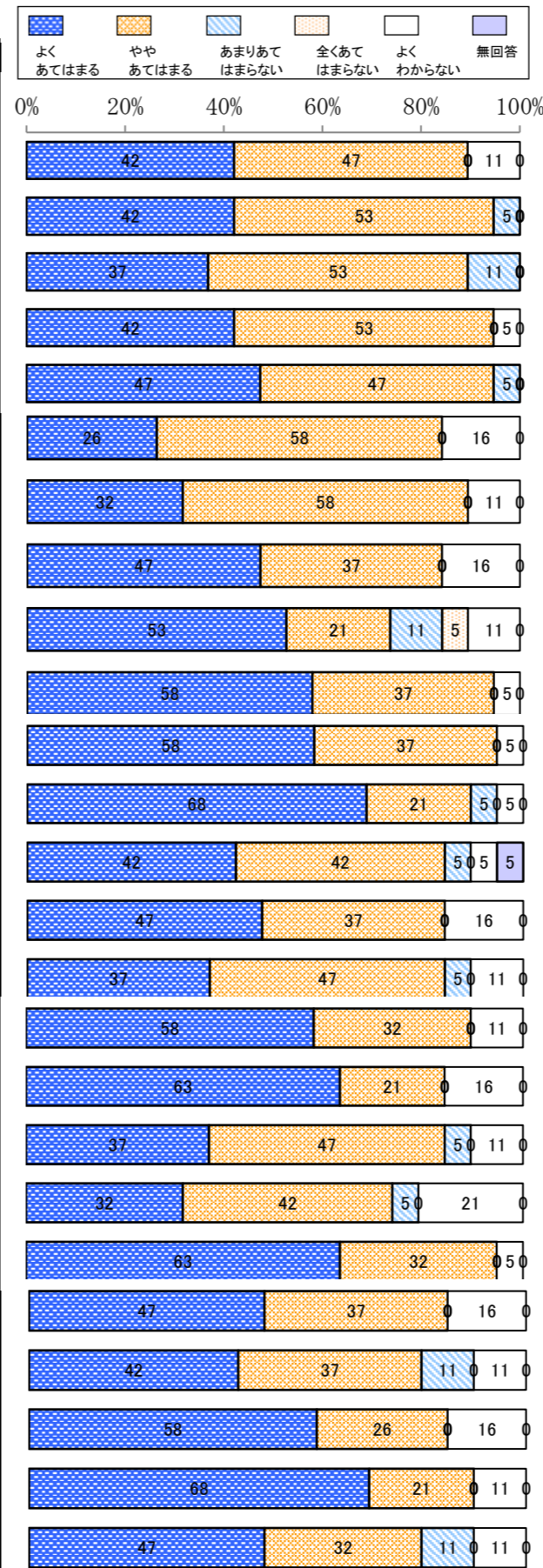


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	42	41	13	1	3	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	73	22	3	1	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	42	42	13	2	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	45	37	12	2	4	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	70	23	4	1	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	61	32	5	0	1	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	63	28	6	1	2	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	70	20	6	3	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	70	23	6	0	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	72	19	4	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	66	28	4	1	2	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	50	34	9	2	6	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	50	22	17	6	5	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	81	16	3	0	0	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	63	28	6	2	1	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	58	25	7	3	8	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	61	31	6	1	2	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	61	24	7	3	4	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	41	27	18	11	2	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	57	28	3	1	10	0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	英語の授業では、児童が楽しみながら英語に慣れ親しみ、積極的に英語で自分の思いを伝えようとしたり、コミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養っている。	55	29	11	3	2	0
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字等の習熟の時間）やあらかわ寺子屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	52	32	9	3	4	0
	23	自主的な休み時間の活用	月2回のスーパー昼休みを設け、校庭で遊んで体力の向上を図ったり、学校図書館を利用して読書を楽しんだりしている。	69	23	6	2	1	0
	24	感染症予防の徹底	欠席の連絡方法の変更や朝の検温の徹底等、感染症を予防するために状況に応じた対応をしている。	81	18	1	0	0	0
	25	外部人材の活用	オリンピックや職人教室、JICA等の外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	58	28	6	1	7	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

△保護者の肯定群96%に対し児童は83%と下回っている。なじみ深い3つのキャラクターを生かしながら、教育目標や取り組みを分かりやすく伝えていく必要がある。

◎コロナ禍においても昨年度と比べ、児童の肯定群が6%高くなり、95%となっている。引き続き、児童が楽しい学校生活を送れるようきめ細やかな指導や声掛けを行っていく。

○肯定的評価が児童84%、保護者85%、教職員90%といずれも高い割合となっている。挨拶についてはさらに力を入れて指導していく。

○児童の肯定群が82%、保護者の肯定群が92%となっている。自己肯定感を得られるような指導の工夫を充実させ、引き続き丁寧な指導を行っていく。

◎肯定群の割合が、児童・保護者・教職員のいずれにおいても90%を越えている。避難訓練や安全指導等の取組が認められていると思われる。引き続き防災教育の意義について具体的に周知していく。

○肯定群が児童93%、保護者89%、教職員84%と高い割合となっている。教員が今後もより分かりやすい授業を工夫して行っていく。

△児童の91%が肯定群であるものの、保護者の肯定群は83%に留まっている。個を見取り、きめ細やかな個別指導を進めている学校の取組を知らせていく必要がある。

◎昨年度同様、児童・保護者共に肯定群が90%を超えている。あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の課題等で、学習習慣の定着に向けての取組が成果につながった。今後も寺子屋へ、より自主的に参加できるように工夫していく。

○児童の肯定群が93%である。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためZOOM等の新たな取組やタブレット1人1台を各教科・領域で活用した授業づくりが成果につながったと思われる。今後もICT機器を活用した授業づくりを進めていく。

◎児童、保護者共に肯定群が90%を超え。学校図書館の充実や調べ学習での活用、読み聞かせ等が効果的なものとなっていることが分かる。

○昨年度と比較し、児童の肯定群は同じものの、保護者の肯定群が4%増え85%となった。いじめ対策を実施している事実を周知したことが要因と考えられる。今後も組織的に対応していく。

○児童・保護者・教職員ともに肯定群が80%以上である。引き続き児童に対してねらいとする道徳的価値に迫れるような授業を工夫したり、日常でも指導を行っていく。

△昨年度に比べ、「よく分からない」が3%増え17%となった。担任や養護教諭、スクールカウンセラー等、幅広く相談体制があることを児童・保護者に伝え、今後も組織的な対応、丁寧な初期対応に努める。

◎肯定群が児童、保護者共に97%と高い割合となっている。良い人間関係を築き合い、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。

○児童、保護者の肯定群が90%を超えており、コロナ禍ではあるが自ら考えながら活動できるように工夫することができている。今後も感染症対策を徹底しながら行っていく。

◎昨年度と比較し、児童の肯定群が10%、保護者が3%向上した。コロナウイルス感染症拡大防止策のための情報発信を細やかに行ったことが効果的であったと思われる。

○児童の肯定群は昨年度と同様だが、保護者の肯定群が6%上昇した。相談に対して迅速・丁寧に取り組んだ結果と思われ、今後とも組織的に取り組んでいく。

○授業公開ができなかったものの、Zoomの活用や、感染症対策を十分に考慮した行事等の参観を実施することができた。

△昨年度と比べて、児童の肯定群が6%、保護者の肯定群が10%減少し、「よく分からない」が保護者の比較で10%増え21%となった。コロナ禍において地域行事が全てキャンセルされた事を踏まえれば、当然の結果である。

○児童、保護者共に肯定群が昨年度より若干ではあるが上昇した。意見を反映したことを伝えた結果と考えられる。今後とも保護者や地域の意見を真摯に受け止めていく。

○児童の84%が楽しみながら英語に親しみ、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとしている。しかし、高学年になるにつれ、否定的回答が増えているため、研究を通して、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとするための手立てを編み出し、実践していく必要がある。

◎ほとんどの児童がマスタータイムを中心に基礎基本の徹底を図っている。今年度同様、課題のある児童はあらかわ寺子屋などで学習するように促す。

◎92%の児童が校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら休み時間を楽しく過ごすことができていた。保護者もそうした児童の様子を理解していると考えられる。

◎児童の99%、保護者の97%が肯定的回答をしている。引き続き、状況に応じながら感染症対策を徹底していく。

△保護者の76%が肯定的評価であったものの、17%がよく分からないと回答している。教育活動における外部人材がどのように位置付けられているか等を、HPや学年だより等で周知していく。